

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和6年4月30日現在

今月の重点活動

■エダマメ 大阪中央卸売市場及び岐阜中央卸売市場研修における販売支援

J Aぎふえだまめ部会は、4月22日から選果を開始し、大阪中央卸売市場及び岐阜中央卸売市場へ今シーズン初めての出荷を行った。この出荷物の品質確認と情報交換を行う目的で、4月22日・23日の2日間、部会の代表役員6名とJ Aぎふ、全農岐阜、岐阜農林事務所の職員が両市場を訪問した。



【曾我屋選果場の稼働状況】

市場では、6月出荷など直近の販売の見通しと、茶豆風味系品種の今後の販売戦略や、機械収穫の可能性、担い手対策など幅広い内容について意見交換を行った。各市場とも出荷量の維持拡大について生産者以上に関心が高く、農林事務所からは産地が取り組み中の対応策である機械収穫の実証内容などを説明し市場への理解を求めた。また、市場に到着したエダマメが品質良好であることを確認した。なお、この日の市況は1kgあたり3,000～5,000円であった。産地として、この品質を出荷終了まで維持することや、計画した年間出荷量の達成を共通認識とすることができた。

農林事務所は、今シーズンも出荷量の維持拡大に向けて継続した普及活動を行っていく予定である。
(園芸産地支援第一係)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜地域指導農業士連絡協議会 令和5年度通常総会を開催

岐阜地域指導農業士連絡協議会は、4月9日令和5年度通常総会を岐阜市内で開催した。

今年度の事業計画等、議案審議が行われた後、役員改選が実施され新役員3名が選出された。また、令和6年度から新たに会員となる指導農業士の紹介も行われた。



【新規会員の挨拶】

令和4年度までの3年間、コロナ禍による自粛で指導農業士会としての活動はほぼない状況が続いていた。令和5年度からようやく講演会の開催等、徐々に活動を再開しており、令和6年度にはさらに積極的に活動を行う計画としている。総会後には情報交換会が開催され、活発な意見情報交換が行われるなど、大きな盛り上がりを見せた。

農林事務所は指導農業士会活動に対する提案等を行い、充実した活動になるよう支援を行っていく。
(園芸産地支援第二係)

■岐阜地域4Hクラブ連絡協議会 一致団結、クラブ活動の強化を確認

岐阜地域4Hクラブ連絡協議会は、4月11日に総会を開催し、令和6年度の事業計画等を協議した。コロナ禍が明け、視察研修等の再開や、新規クラブ員の加入に向けた情報収集など、クラブ活動の強化に向けた話し合いがなされた。



【活気あふれる4Hクラブ員】

今回の総会は、久しぶりの対面での開催となった。クラブ員の経営は、いちご、トマト、露地野菜など多品目にわたるが、出席者はお互いの近況について情報交換していた。

農林事務所は、斬新な発想を生かした若手農業者の活躍に期待し、情報提供等を通してクラブ活動を支援していく。

(園芸産地支援第一係)

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 緑肥（ヘアリーベッチ）を利用

最近の世界情勢から肥料などの生産資材が高騰し、農業経営はさらに厳しいものになっている。対策として、農林事務所では使用する化学肥料の低減を図るため、緑肥を利用した水稲栽培の取組みの現地実証を実施している。

水稲の移植時期が4月末～5月初旬に予定されているほ場では、昨秋に播種したヘアリーベッチが大きく生長し、その鋤き込み作業が行われた。なお生長したヘアリーベッチは、そのままでは機械に絡まるため、一旦刈り取った後に鋤き込まれた。

農林事務所では、JAぎふと協力して刈り取り前の4月12日に生育量の調査を行い、その結果から窒素量を推定して、生産者に施肥量を提示した。通常よりも基肥量を減らして田植えを行うこととしている。

農林事務所では、田植後からは生育調査を継続して行い、収量や品質などを確認し、水稲作における緑肥の利用について検証を行っていく。



【緑肥刈り取り作業の様子】

(地域支援第三係)

■小麦 赤かび病の防除を徹底

岐阜管内では、水田を有効活用するための戦略作物として、小麦「タマイズミ」が約520ha栽培されている。

令和6年産小麦の生育は、播種時期に周期的な降雨に見舞われたことから、播種作業にやや遅れが見られたものの、12月から2月にかけて、気温が高い状況が続いたことから生育は進み、分けつも順調に増加した。しかしながら、3月からは低温傾向が続き生育は抑制されており、全体に生育は前年より遅く、出穂期は多くのほ場で4月第2半旬～第4半旬となった。

かび毒を含まない安全な小麦を生産するためには、開花時期およびその10日後の2回、赤かび病防除を行うことが重要であることから、農林事務所では、4月上旬から小麦の出穂状況調査を行い、赤かび病の適期防除指導を続けてきた。今後も引き続き、赤かび病の発生状況の調査や収穫適期について情報提供を行い、良質な小麦生産に向けた指導を行っていく。



【開花期をむかえた小麦】

(地域支援第一係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■かき 摘らい講習会の開催

柿の摘らいは大玉果・高品質生産のために最も重要な作業の一つであり、毎年、4月下旬から各産地の振興会で摘らい講習会が開催されている。

本年の柿の生育は、3月の低温の影響で昨年より展葉が遅くなったが、4月以降の高温で開花は平年（富有で5月20日）より早くなる見込みとなっている。

講習会では、農林事務所から今年の生育状況を踏まえた栽培管理、病害虫防除のポイントを説明し、その後、実演により摘らいの技術支援を行った。参加者は熱心に説明を聞いており、大玉生産への意欲が伺えた。

農林事務所では、今後も主要な栽培管理の時期に開催される栽培講習会で技術支援を行っていく。



【講習会の様子】

<各産地の摘らい講習会の日程>

4/25～27	岐阜市かき共販振興会	6カ所
4/27	マル糸柿振興会	4カ所
	北方町柿部会	1カ所
4/28	瑞穂市柿振興会	4カ所
5/ 1	羽島市柿共同出荷組合	1カ所

(園芸産地支援第二係)